

はじめに

YMFS 調査研究

障害者スポーツ・プロジェクト・リーダー

藤田紀昭

(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団が障害者スポーツの調査を実施し始めて6年が経過した。第1期スポーツ基本計画による障害者スポーツの推進、東京2020パラリンピック開催の決定、障害者スポーツ所管の変更、スポーツ庁の成立、第2期スポーツ基本計画による推進など、障害者スポーツを取り巻く状況が大きく変化する激動の6年間と言える。

障害者スポーツ・プロジェクト（以下本プロジェクトとする）は、障害者スポーツ選手のキャリア、指導者の状況、障害者スポーツ競技団体、大学における障害者スポーツ振興、パラリンピックをめぐるメディアの状況、障害者スポーツの地域振興などを分析の視点として、その変化を記録してきた、まさに歴史の証人と言えよう。

例えば、2012（平成24）年段階で障害者スポーツに関心を示し、選手の育成や指導者の養成を行っている大学はほとんど皆無であったが、現在では先進的ないくつかの大学でそうした取り組みがなされている。現在、すべてのパラリンピック競技団体が法人格をもっているが、2013年の調査では半分に満たなかった。これらの変化を客観的データにより記録し、後世に伝えていくことは日本の障害者スポーツ界の変遷を記録するという点でそれ自体価値あることである。しかし、本プロジェクトとしてはこれらを基礎資料として、より障害者スポーツの発展に寄与することが大望である。できるだけ多くの方々が本報告書を読み、障害者スポーツの現状に関心を寄せ、また、その推進の方向性や方法について考えるときの資料となれば幸いである。

本報告書の第1章では障害者スポーツ競技団体の実態調査の結果について報告している。2013（平成25）年に引き続き、2回目の調査となる。今回はパラリンピック採用競技の団体に加え、パラリンピック競技団体以外の団体も対象とした。組織の形態や事務局機能、実施事業などの実態が明らかになっている。パラリンピック競技団体と非パラリンピック競技団体の比較や5年前との比較もしており、興味深い結果が報告されている。

第2章はパラリンピアンに対する社会認知度調査の結果について報告している。今回は平昌（ピョンチャン）2018パラリンピック出場選手が主な対象となっている。平昌2018パラリンピックのメダリストはじめ出場選手の認知度の他、2年前に実施したリオ2016

パラリンピック選手の認知度の経過調査も行っており関心がもたれるところである。

第3章は大学における障害者スポーツ推進の先進的な取り組みについて報告している。今回は学外実習で障害者スポーツに取り組み単位化している久留米大学、北九州市立大学、障害者スポーツ関連のサークル活動が活発な広島大学、そして障害者スポーツ関連で日本版NCAAの事業委託を受けている順天堂大学の4つの大学の取り組みについて紹介している。

第4章では地域における障害者スポーツの実態調査の結果について報告している。調査研究というマクロな視点に加え、地域の実態というミクロな視点からも障害者スポーツの現状を把握するためである。今年度は福岡県の取り組みについてとりあげた。県と政令指定都市が連携しつつ障害者スポーツを推進しており、他府県においても参考となると思われる内容となっている。福岡県内関係者による座談会の内容も興味深いところである。昨年の静岡県に引き続き、県内の障害者スポーツ大会などに参加している選手や指導者に対するアンケート調査の結果についても報告している。

最後に、本プロジェクトの諸調査にご協力をいただいた（公財）日本障がい者スポーツ協会をはじめ大学、各団体の皆様、また、お忙しい中、調査に回答してくださった皆様に心から御礼申し上げます。次年度以降も本プロジェクトは継続して調査研究を実施していく予定です。引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)
大学における 障害者SPの現状	○		○		○	○	○
パラリンピアン のスポーツキャリア		○					
パラリンピック 指導者の現状		○					
障害者スポーツ 競技団体活動		○					○
障害者SP選手 発掘育成システム			○				
パラリンピアン の社会的認知度			○		○		○
ジャパラ選手の スポーツキャリア				○			
パラリンピックTV放送					○		
地域現場の実態						○	○
障害者SP関連CF状況						○	

■目次

はじめに	1
第1章 障害者スポーツ競技団体の実態調査	5
第2章 パラリンピアンに対する社会的認知度調査	70
第3章 大学の先進的取り組み調査	97
第4章 地域現場における実態調査	118

■ 障害者スポーツ・プロジェクト

リーダー	藤田紀昭	日本福祉大学スポーツ科学部	教授
メンバー	小淵和也	(公財) 笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所	主任研究員
	河西正博	同志社大学スポーツ健康科学部	助教
	齊藤まゆみ	筑波大学体育系	准教授
	中森邦男	(公財) 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会	参事
監修	浅見俊雄	東京大学・日本体育大学 (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	名誉教授 理事
事務局	尾鍋文光	(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	

2019年3月現在